

「花嫁のれん」の下がるまち～石川県七尾市～

2009年最初のまちづくり瓦版は、能登半島から。

2007年に震度6強を記録した能登半島地震が記憶に新しいところですが、ここは北前船による交易で栄え、交流と土地由来の文化が混在した独自の文化が広がる地域でもあります。

そのなかから、万葉の時代から国津・国府・国分寺等が置かれた、能登地方の政治・経済・文化の中心地である七尾市を紹介します。

七尾市は、人口約6万人（福島県でいうと、白河市と面積・人口など、ほぼ同規模ですね）。市街地は明治に2度の大火を経験し、蔵づくりの多い情緒ある町並みがひろがっています。

まずは、北前船の寄港地として栄えた町の雰囲気の色濃く残す「一本杉通り」へ。ここには、醤油・昆布・造り酒屋・和ろうそく・仏壇など、昔ながらの名店が建ち並んでいます。

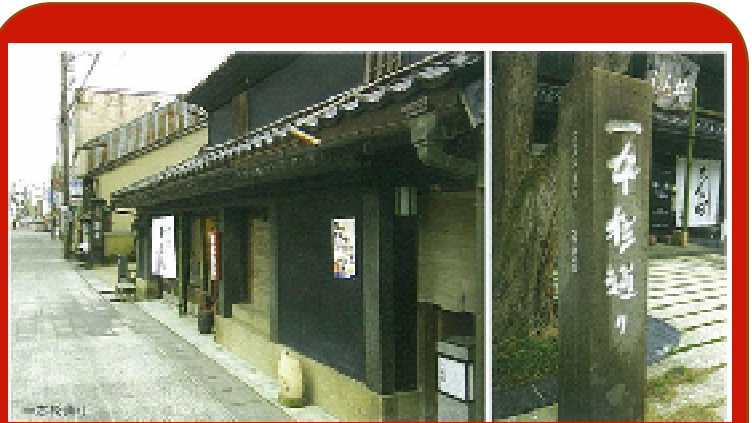
ここで、毎年、目にも鮮やかな「花嫁のれん展」が開催されています。

「花嫁のれん」とは、能登・加賀・越中に見られる結婚式の風習です。花嫁は嫁入りの際に、生家の家紋とおしどり・花車などのおめでたい柄を染め抜いたのれんを持参します。結婚式の前に、花婿の家の仏間の入口に掛けられた、こののれんをくぐり、花嫁は先祖のご仏前にお参りをするのだそうです。のれんは、娘の幸せを願いつつ実家の両親があつらえるものですが、使われるのはたったの一度。結婚式の後は、大切にしまっておかれるものでした。

これを、一本杉通りの活性化に活用できるのでは、と考えたのが通りのおかみさん達でした。

おかみさん達と一本杉の商店街の努力により、第1回ののれん展が開催されたのが、平成16年のことです。これが女性を中心に、予想外の大盛況。その後は展示の希望者も増え、さらには東京での出張のれん展開催など、のれん展はさらにバージョンアップしています。

花嫁のれん展は、毎年、ゴールデンウィークに開催される能登地方最大の祭り「青柏祭」と「母の日」にあわせて開催されています。一度、能登の女性達の思いに触れてみてはいかがでしょうか！



一本杉通りの街並み（七尾市観光協会パンフレットより転載）



通りのマップを入手！

一本杉通りには、5箇所の「国指定登録有形文化財」が点在。語り部処は、通りのまち歩きの出点になっています。

これが「花嫁のれん」です!!綺麗ですね～** 通りのお店で伺ったところによると、この風習のため、「加賀友禅」の技術が戦中も絶やされずいられたのだとか。（画像は昨年の「のれん展」チラシより転載させていただきました）



↑ 明治の大火を逃れた有形文化財の建物です。前号紹介しました「うだつ」。美濃で多く見られるのは「本うだつ」ですが、ここには「袖うだつ」が見られますね(^-^)



また、七尾のまちづくりに欠かせないポイントに、市内を流れる「御襦川」があります。七尾港の「能登食祭市場」と七尾駅、2つの拠点を結び町のシンボルロード沿いに流れ、「青柏祭」のメインステージともなる場所ですが、ここはかつて、「ドブ川」状態でした。

七尾では、この川の再生について中心になって行うまちづくり会社やTMOなどの複数のまちづくり団体、また行政により、さまざまな取組みが行われています。



↑「青柏祭」の様子です！奥が七尾港です。
(七尾市パンフレットより転載)



↑橋の整備は、まつり文化をテーマに。七尾の伝統産業「和ろうそく」を灯す「燭台」を取り付けた「あかりの橋」などがデザインされています。



↑まちづくり会社「(株)御襦川」による寄合処「御襦館」。1階は、工芸品店・地元食が味わえる飲食店。2階が事務所になっています。



↑土蔵を曳家し、まち情報やイベントサポートを行っている「しるべ蔵」。

観光客向けというより、さりげないけれど、地域の宝物やそこに住む人の生活を大切に、できるところからまちづくりを、というとても穏やかな印象を受けました。そこにいと当たり前で気がつかない、そんなものがとても大事な地域資源なのでは・ ・ 皆さんも是非、見直してみたいはかがでしょうか！

「H20まちづくり交付金研修会ふくしま」を開催しました！

12月3日(水) 棚倉町において、まちづくり交付金に関する研修会を開催しました。

午前「棚倉城跡周辺地区」のまち歩きを行い、午後からは文化センターで研修を行いました。

国土交通省東北地方整備局都市・住宅整備課課長補佐の横山さまから東北地区の先進的な事例の紹介を、(株)まち工房たなぐらの専務取締役石田哲二さま、伊藤敦さまからご当地棚倉町のまちづくりについてのお話を、県内の事例紹介として本宮市さまから「本宮市街地地区」の取組を、また、桑折町さまから今年の新規事業「地方の元気再生事業」の取組状況について、それぞれ発表いただきました。

以下のような印象的な意見があげられました。今後のまちづくりに、活かしていきましょう！

- ・「まちづくり」そのものを楽しむことが成功のカギである。(横山氏)
- ・もっと「そこに生きている人」を紹介したい。「棚倉愛」を育ててもらい、大きくなって棚倉に戻ってきたいと思う子供たちを育てたい。(伊藤氏)
- ・よく聞くのは、集客数を誇る成功例。しかし、劇的に変わる、劇的に人が来る、というのは私は非常に怖い。あくまでも、住んでいる住民が、昨日よりは、去年よりは、ちょっとはよくなっている、と感じていただけるのがまちづくり。ゆっくりでいい。それを目指したい。(石田氏)
- ・(石田氏の説明の)「行政とまちづくりは仲よしクラブじゃないんだ」という言葉はすごく強烈に感じた。あとはその町に誇りをもてる人がどれだけいるか、その人を発掘して、プラスに、こうしようああしようという意欲のある人をとにかく集める、そういうものをやっていたいかなければ、というふう感じた。(参加者)

県営公園の紹介コーナー

いわき公園

公園概要

当公園は、いわき市の平地区と小名浜地区のほぼ中間にあるいわきニュータウン内に位置し、いわき市のみならず、近隣の市町村からの広域レクリエーションの場として、また、良好な住環境の確保や憩いと潤いを提供する拠点として、多くの県民の皆様にご利用いただいています。



施設内容

みんなの広場、もみじの道、エントンス広場、滝の流水、暮らしの伝承郷、多目的広場、アドベンチャー広場、さくらの道、森のわくわく橋、しょうぶ園、水辺の散歩道、フラワーガーデン等

アクセス

- ・JRいわき駅よりニュータウン行きバス乗車、飯野2丁目バス停下車、徒歩5分
- ・車...いわき駅より県道小名浜平線で小名浜方面へ、途中いわきニュータウンの案内看板を左折(約15分)

問い合わせ先

【福島県いわき建設事務所】

- 地域保全課 0246-24-6122
(公園の維持管理について)
- 行政課 0246-24-6109
(多目的広場の使用許可について)

【公園管理棟】 0246-29-1684



森のわくわく橋



エントランス広場



フラワーガーデン



もみじの道



暮らしの伝承郷

イベント告知

平成20年度子育て支援を進める県民運動事業

子育て支援交流会が開催されます。

子育て支援団体等のネットワークづくりや子育てサークルの活動活性化の一助としていただくため、子育てサークルのメンバー、地域の子育て支援に携わる方をはじめ、まちづくり関係者等も含めた交流会が開催されます。

この交流会は、分科会方式で行われ「子育てに優しいまちづくり事例発表会」の分科会では商店街の活性化や中心市街地での子育て支援活動の事例発表が予定されております。

その他の分科会や全体会の内容は、下記のとおりです。

【日時】平成21年2月14日(土) 13時00分～16時30分
(受付12時30分～)

【場所】郡山市労働福祉会館 (郡山市虎丸町)

【プログラム】

13:00～14:50 《分科会1》「子育て支援連絡会議情報交換会」
《分科会2》「子育てサークル等活動発表会」
《分科会3》「子育てに優しいまちづくり事例発表会」
15:00～16:30 《全体会》「子育てに優しいまちづくり先進事例発表」
(名古屋市柳原通商店街振興組合)
「分科会の内容発表」
「子育て支援大交流会」



託児あり

入場無料

【対象】子育て支援や子どもに関心のある方であれば、どなたでも自由に参加できます。

分科会については、会場の都合上、事前申込み(先着順)をお願いします。空席がある場合は、当日の参加が可能です。申込締め切り日 平成21年2月3日(火)

お申し込み・
お問い合わせ先

〒960-8670 (住所不要) 福島県保健福祉部子育て支援課

電話 024-521-7198 FAX 024-521-7747 メール kosodate@pref.fukushima.jp

主催：福島県子育て支援連絡会議連合会、福島県
後援：郡山市

メールマガジン登録随時受付中!!!

登録された方には、県内外のまちづくりに関する情報のほか、イベントなどのお役立ち情報をメールにてお知らせいたします。

メールマガジン(無料)の登録をご希望される方は

1. 団体・会社名
2. 氏名
3. メールアドレス

1～3を記入の上、まちづくり推進課のメールアドレス(machizukuri@pref.fukushima.jp)まで希望する旨ご連絡下さい。

「編集後記」

「まちづくり瓦版～うつくしま、まちづくり推進レポート～」(Vol.31)はいかがでしたでしょうか？

今後とも各地のまちづくりの取組み事例の他、街路や公園等の事業紹介やイベント等の情報提供も含め、より充実した内容にしていきたいと思っております。取り上げてほしい事例や写真、ご意見・ご感想などございましたら遠慮なくお寄せ下さい。

【発行元】

福島県土木部まちづくり推進課
〒960-8670 (住所記載不要)
TEL 024-521-7510
FAX 024-521-7956
e-mail mac hizukuri@pref.fukushima.jp
URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/>

